

# 愛知県の取組について

2018年11月16日  
第15回スーパー・メガリージョン構想検討会

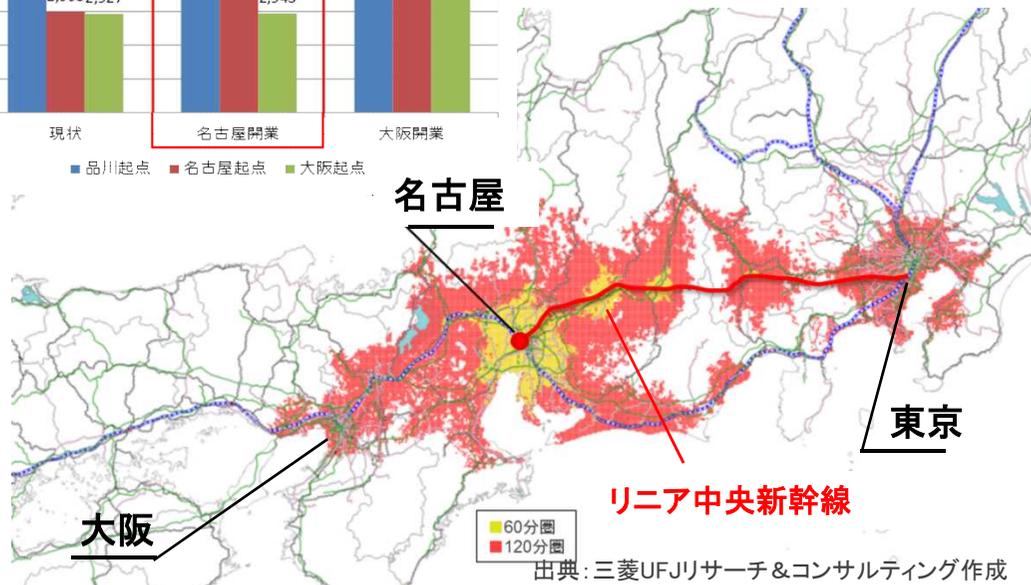
愛知県

# リニア中央新幹線開業のインパクト①

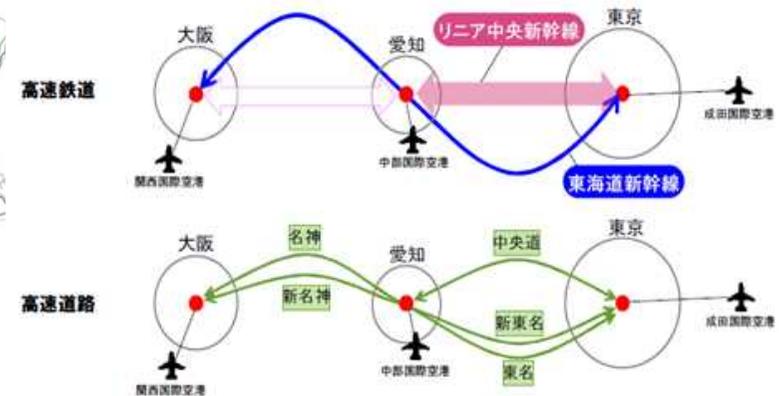
- 2027年度のリニア中央新幹線の開業（東京・名古屋間）により、2時間圏人口は名古屋が国内最大となる。大阪開業時においても名古屋からの2時間圏人口が最も多い。
- リニアの開業により、本県は、東海道新幹線とあわせた2本の新幹線と、東名・名神高速道路と中央自動車道、新東名・新名神高速道路の複数の高速道路により、首都圏との間で重層的な交通ネットワークを有する我が国唯一の地域となり、中部国際空港や名古屋港などの充実した空港・港湾機能とあわせ、本県の立地優位性が一層高まる。



リニア（東京ー名古屋間）が開業した場合の名古屋からの60分圏・120分圏エリア



重層的なネットワークで結ばれる東京と愛知

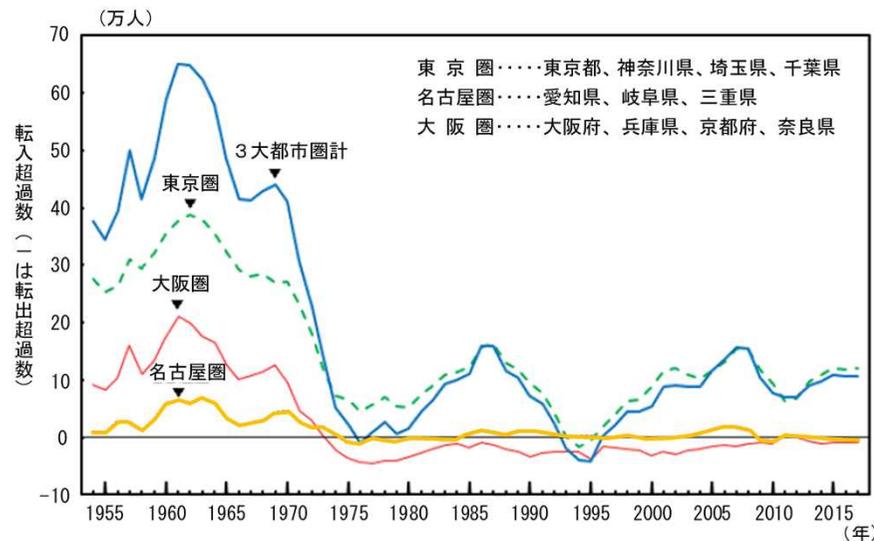


出典：愛知県「リニア中央新幹線影響等調査」(2013年3月)

## リニア中央新幹線開業のインパクト②

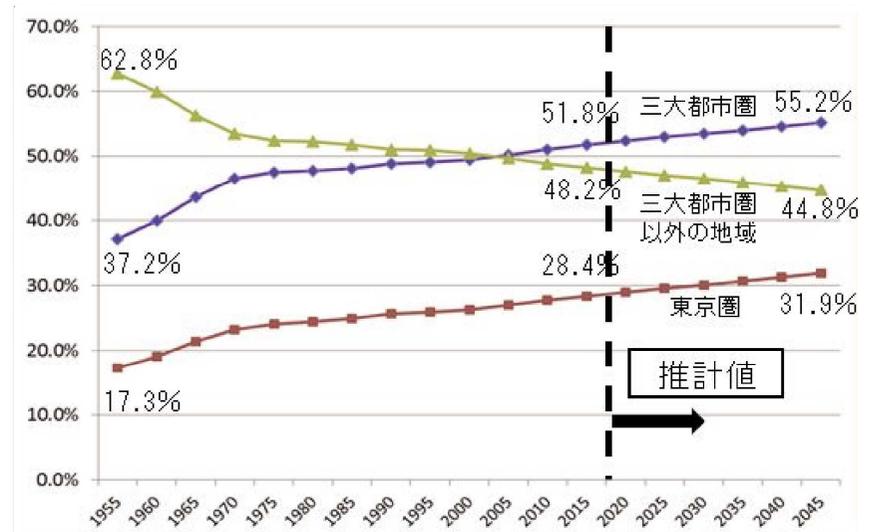
- リニア中央新幹線の開業による、社会的・経済的な交流の拡大に伴い、この地域にとって、産業活動や観光などプラスの影響が期待される一方で、支店・営業所などの撤退や、消費・文化活動などが流出するなど、マイナスの影響も懸念される。
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催もあって、今後、東京への一極集中がさらに加速していくことも想定されることから、首都圏との関係を念頭に置きながら、地域の強みを生かした戦略的な地域づくりが必要。**東京一極集中にストップをかけ、日本の活力を取り戻す大きな核としての役割を愛知が果たす。**

三大都市圏の転入・転出超過数の推移（1954～2017年）



出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告2017年結果」

三大都市圏及び東京圏の人口が総人口に占める割合



出典：自治体戦略2040構想研究会  
「自治体戦略2040構想研究会第二次報告」（2018年7月）



# リニア開業(東京・名古屋間)を見据えた愛知の地域づくり

## あいちビジョン2020

日本一の元気を暮らしの豊かさに

リニア開業後の2030年頃のめざすべき愛知の姿を明らかにするとともに、2020年までに取り組むべき重点的な戦略を明らかにした愛知県の長期計画 [2014年3月策定]

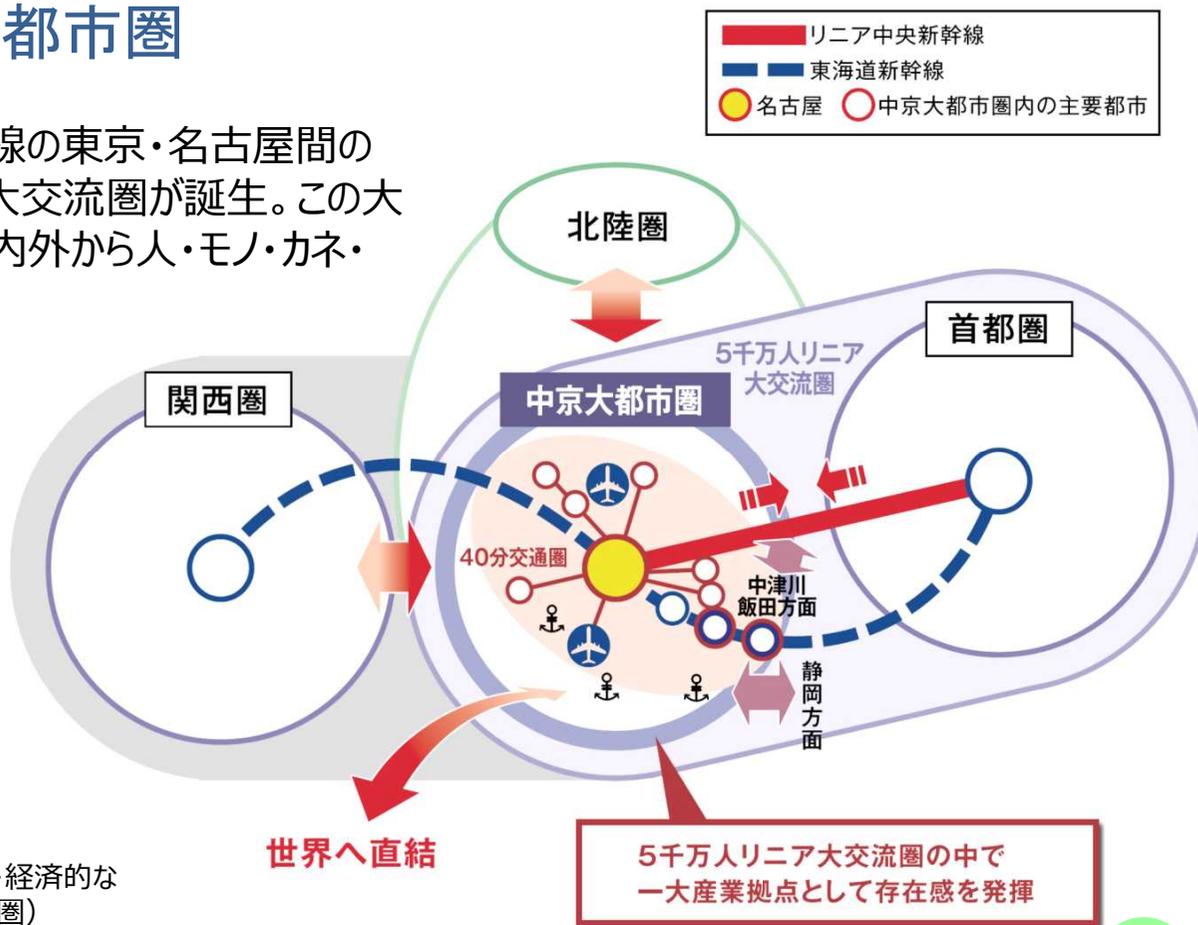
# めざすべき愛知の姿 ～あいちビジョン2020～

## 1 リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏

2027年度のリニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業により、5千万人規模の大交流圏が誕生。この大交流圏の西の拠点として、国内外から人・モノ・カネ・情報を惹きつけていく。

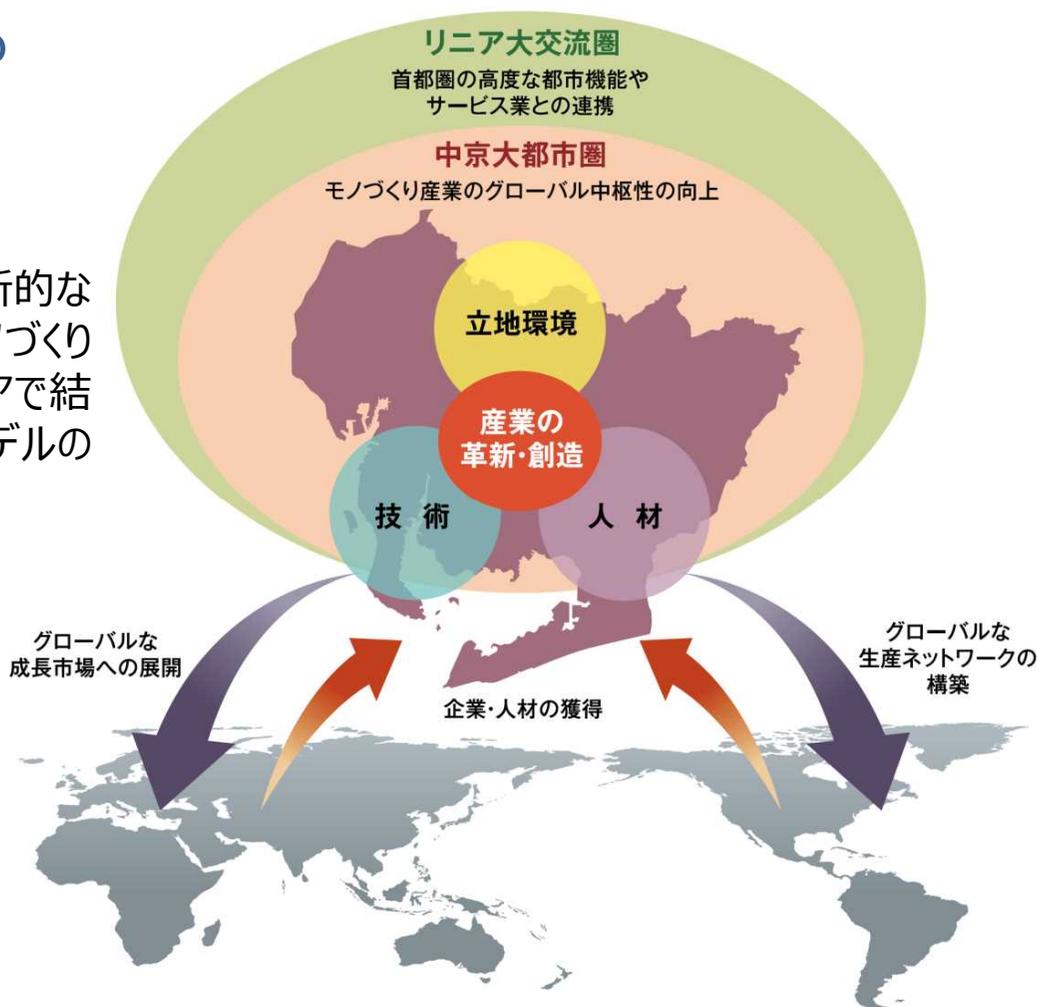


中京大都市圏：名古屋を中心に社会的・経済的な結びつきが強い広域エリア（80～100km圏）



## 2 日本の成長をリードする 産業の革新・創造拠点

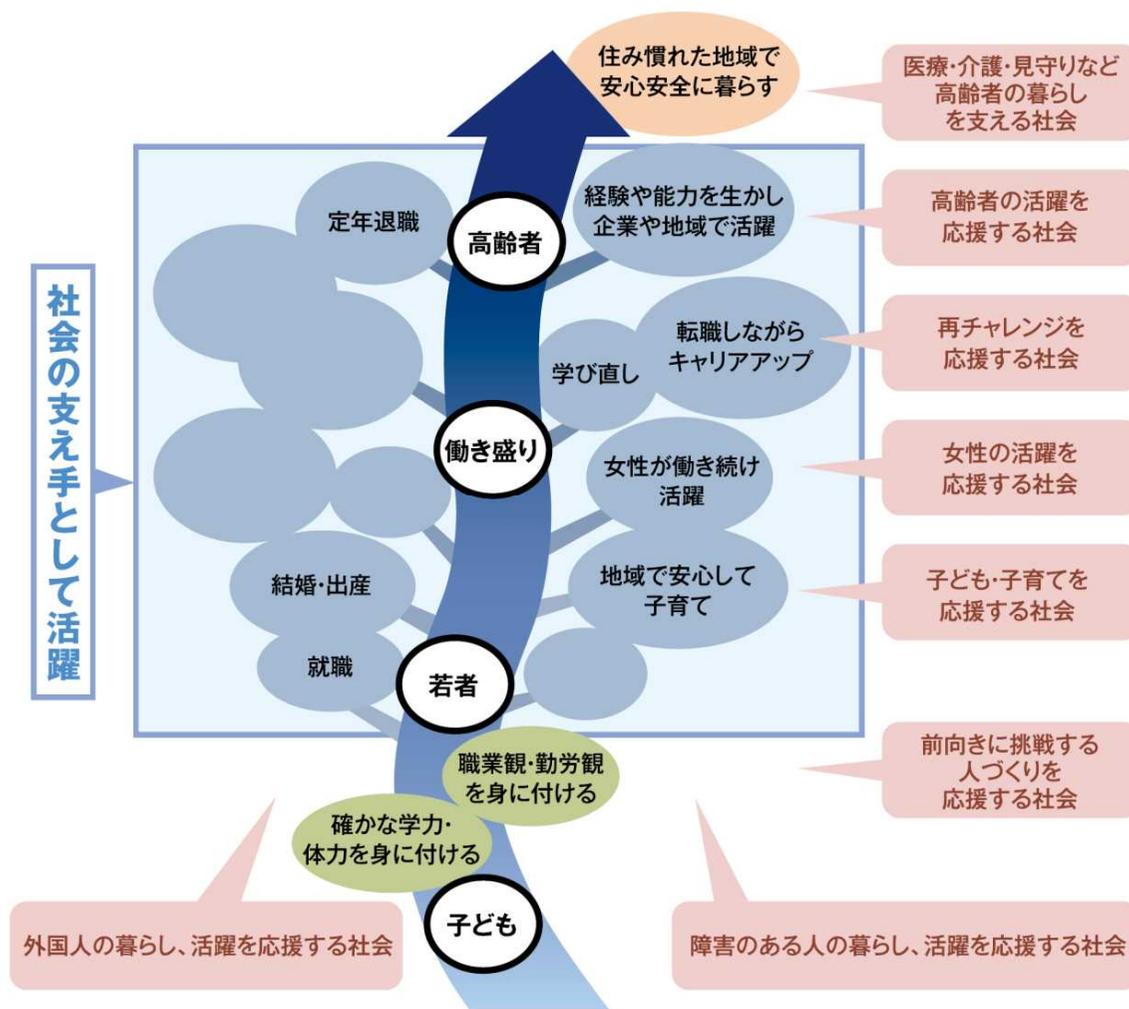
国内外から企業や人材が集まり、革新的な技術の創造が進む。グローバルなモノづくりの中枢性がさらに高まるとともに、リニアで結ばれる首都圏とも連携し、ビジネスモデルの高度化や成長産業への展開が進む。



# めざすべき愛知の姿 ～あいちビジョン2020～

## 3 安心安全で、誰もが夢と希望を抱き、活躍する社会

人口減少社会を見据え、若者、女性や高齢者、障害がある人など、すべての人が活躍する、「人が輝く愛知」を実現。



# 中京大都市圏

～5千万人リニア大交流圏の西の拠点となる大都市圏に向けて～

リニア開業効果を高める交通ネットワークの形成や国際交流基盤の整備・機能強化、名古屋都心部等への高次都市機能の集積、自立した大都市圏づくりなどに取り組む。

これにより、リニア開業のインパクトを圏域全体で受け止めていく。



中部地方整備局愛知国道事務所提供

- 名古屋環状2号線 名古屋西JCT
- ・環状道路の全線開通に向け、唯一の未開通区間となる西南部・南部区間を整備中



- 名古屋港飛島ふ頭
- ・飛島ふ頭東側コンテナ取扱機能の強化を推進



中部国際空港株式会社提供

- 中部国際空港
- ・二本目滑走路を始めとする機能強化の実現に向けた取組を推進



名古屋市役所提供

- 名古屋駅周辺
- ・再開発による高次都市機能の集積を推進

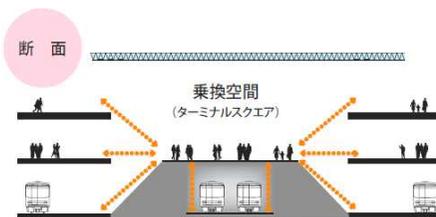
# (1)リニア開業効果を高める鉄道ネットワークの整備

- リニア開業による首都圏との時間短縮効果をより広域的に波及させるため、名古屋駅のスーパーターミナル化、名古屋駅からの40分交通圏の拡大等の取組を推進。

## 名古屋駅のスーパーターミナル化

### ターミナルスクエアの整備

- 乗換利便性の向上のため、乗換先が一目で見渡せ、上下移動も円滑にでき、案内機能も備えた広場空間「ターミナルスクエア」を設置する。



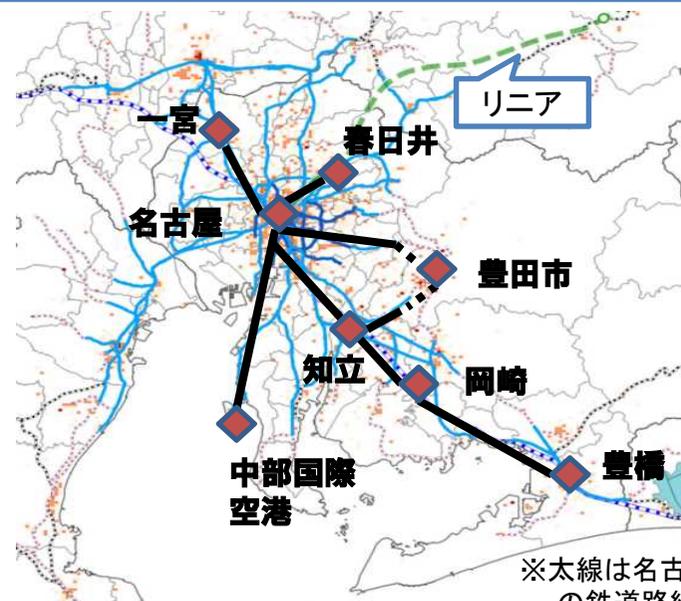
## 中部国際空港アクセスの向上

- 名古屋駅のスーパーターミナル化とともに、名鉄名古屋駅における中部国際空港行き列車の「わかりやすい乗り場」、「乗降しやすい環境」を確保する取組を進める。

## 東海道新幹線駅の利活用の促進

- 三河地域においては、リニア開業後も東海道新幹線が広域的な交通手段になることが見込まれることから、東海道新幹線駅へのアクセス向上に向けた調査を進める。

## 名古屋駅からの40分交通圏の拡大



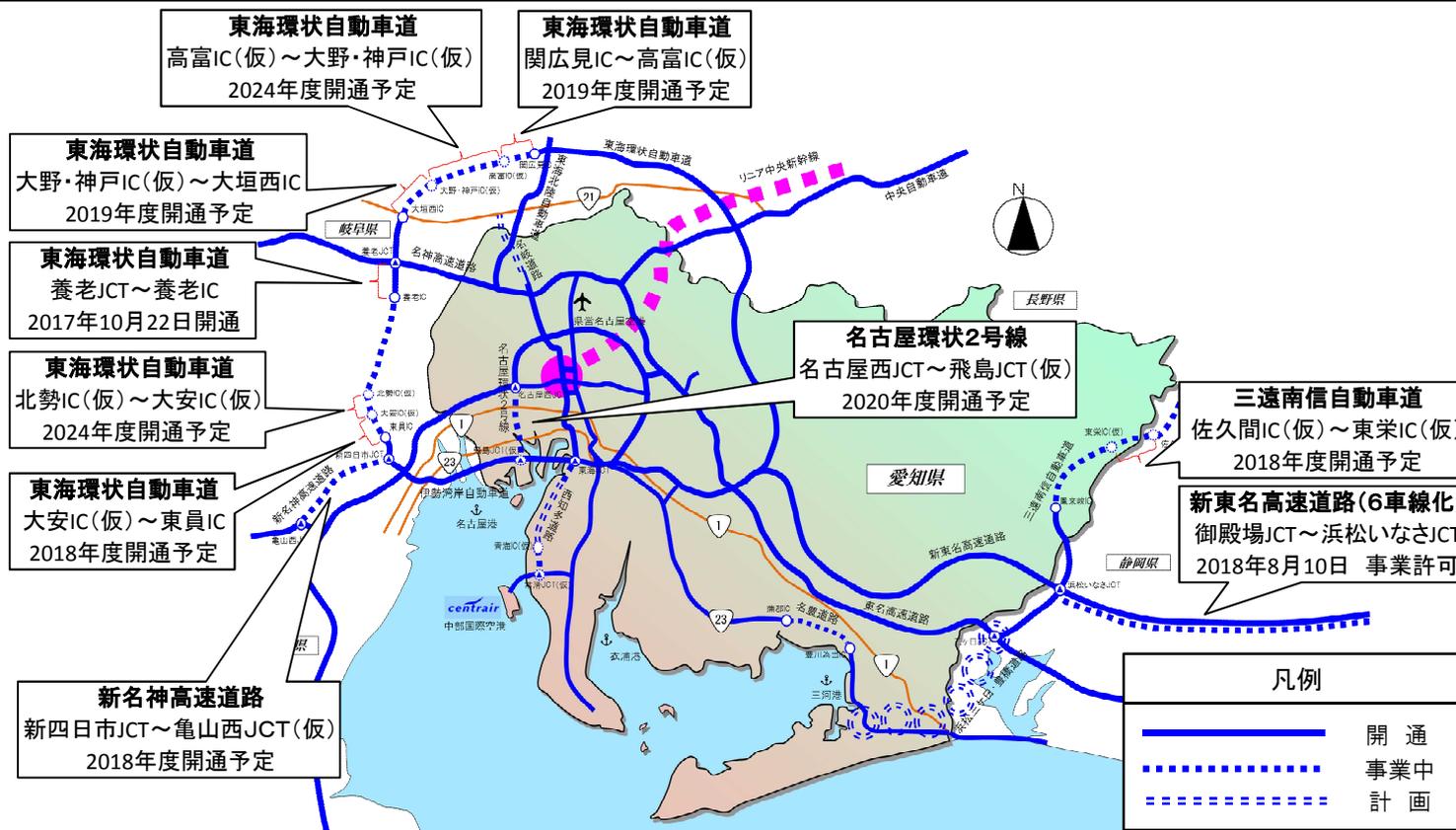
※太線は名古屋駅から40分圏の鉄道路線のイメージ

## 名古屋駅と豊田市間の速達化

- 首都圏との日帰り交通圏の拡大を図るため、名古屋駅と県内主要都市を40分以内で結ぶことを目指す。
- 名鉄三河線の複線化などにより名古屋駅－豊田市中心部駅間の所要時間を短縮する。

## (2) 広域道路ネットワークの整備・充実

- 高速道路、新幹線、名古屋港、中部国際空港など、陸・海・空の優れた交通条件を活かし、リニアインパクトを広域に波及させるため、ミッシングリンクの解消に向けた整備を推進。
- 中部国際空港連絡道路など愛知県道路公社が管理する有料道路において、その運営を民間事業者が行う、我が国初の有料道路コンセッションの取組を推進。その取組の一つとして、2016年10月から一部路線において料金の値下げを実施。



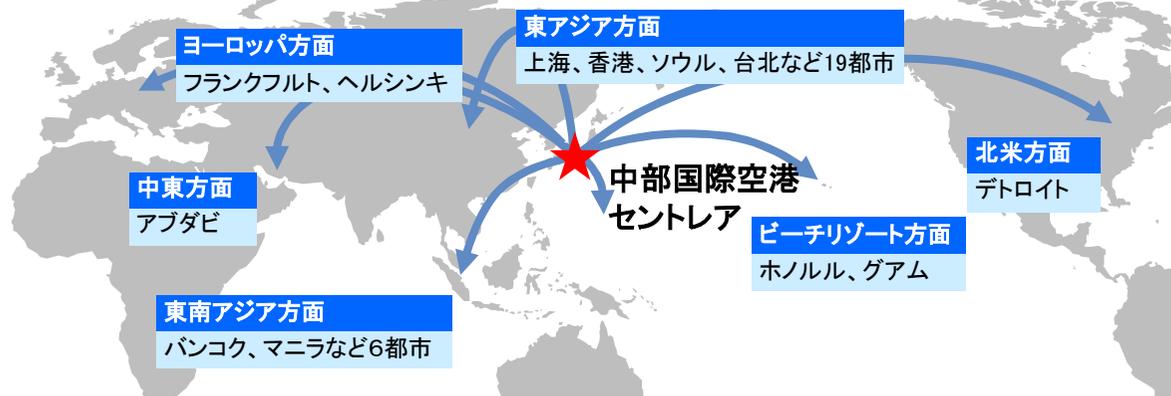
### (3) 航空ネットワークの充実

- 航空需要の増加を見据え、**LCC向け新ターミナルビルを2019年度上半期のオープンに向け整備**。2019年度は国際線、国内線合わせて、旅客数1,500万人/年を目指す。
- リニア開通により中部国際空港へのアクセス圏域が広がり、さらなる航空需要の増加が期待されることから、**二本目滑走路（完全24時間化）を始めとした機能強化の早期実現を目指す**。

#### 最近の就航状況 ※便数は2018年11月1日現在

- 【国際線】 2018年 6月21日 エア・プサン（釜山：週7便）  
 2018年10月28日 スターフライヤー（台北：週7便）  
 2018年10月30日 タイ・エアアジアX（バンコク：週7便）
- 【国内線】 2017年10月29日 エアアジア・ジャパン（本社：常滑市）  
 （札幌（新千歳）：1日3便）  
 2018年 8月 1日 スカイマーク（鹿児島：1日2便）  
 2018年10月28日 ソラシドエア（鹿児島：1日2便）

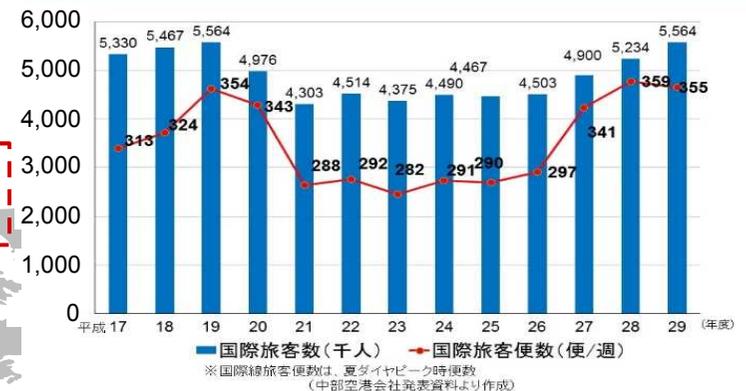
2015年9月 エアアジア・ジャパン本社および拠点  
 2018年3月 ジェットスター・ジャパン拠点 → 中部国際空港に設置



#### ■就航路線及び便数（2018年11月1日現在）

国際線：旅客便 31都市 339便/週  
 貨物便 20便/週  
 国内線：旅客便 19都市 85便/日

#### 国際線旅客数と便数の推移（単位：千人、便/週）



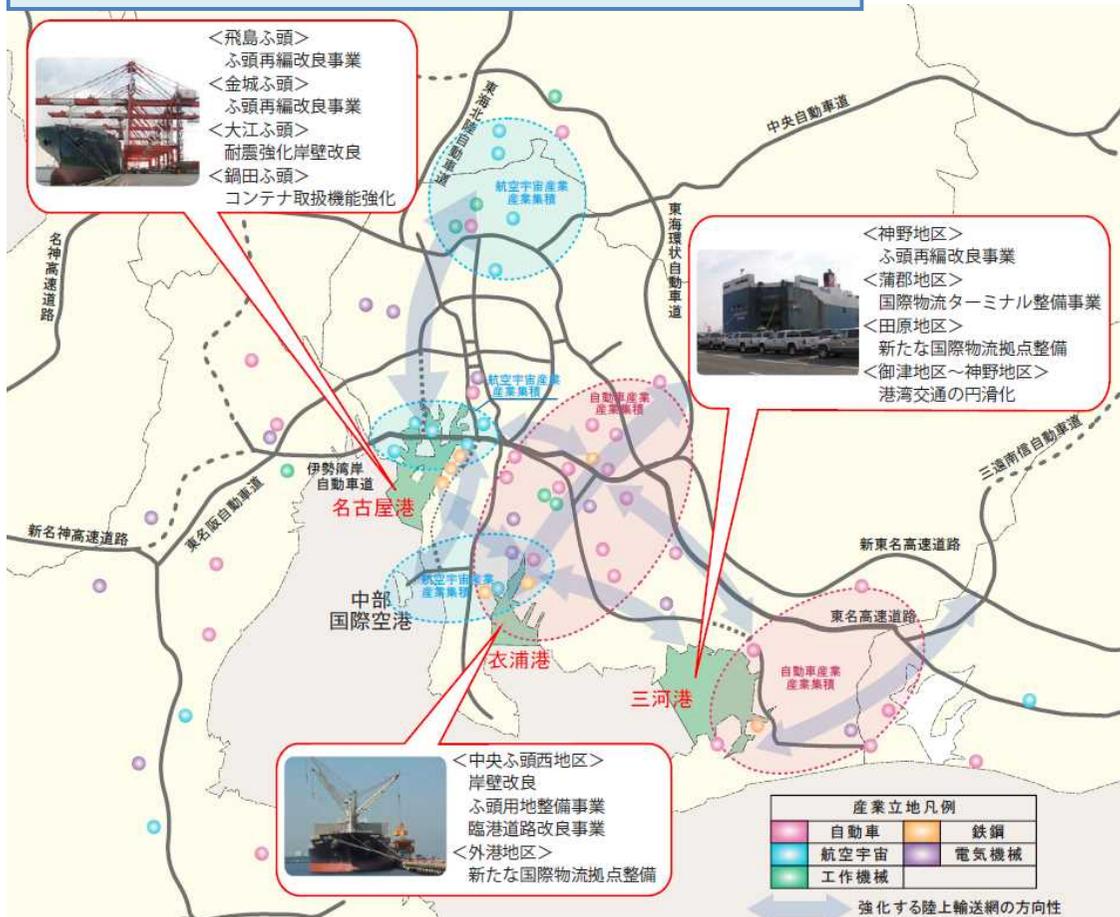
#### LCC向け新ターミナルビルの外観イメージ



# (4) 港湾の物流機能強化

○ モノづくり中部と世界を結ぶ海のゲートウェイである名古屋港、衣浦港、三河港の県内3港において、それぞれの特徴を活かし、背後産業のサプライチェーンを構成する関係者が連携して、港湾機能、物流の生産性を高めていく。

## 産業立地と主要な港湾物流機能強化策



## 名古屋港の機能強化

総取扱貨物量 16年連続全国第1位

中部地域のモノづくり産業を物流面で支える「国際産業戦略港湾」として、機能強化を図る。

## 衣浦港の機能強化

石炭・鋼材等のバルク貨物の安定的な輸出入に対応する工業港

知多及び西三河地域における物流・生産活動を支える工業港として、機能強化を図る。

## 三河港の機能強化

完成自動車輸入台数・金額 25年連続全国第1位

完成自動車等の国際海上輸送のハブ港として、機能強化を図る。

# 2 産業革新・創造

～日本の成長をリードする最強の産業県に向けて～

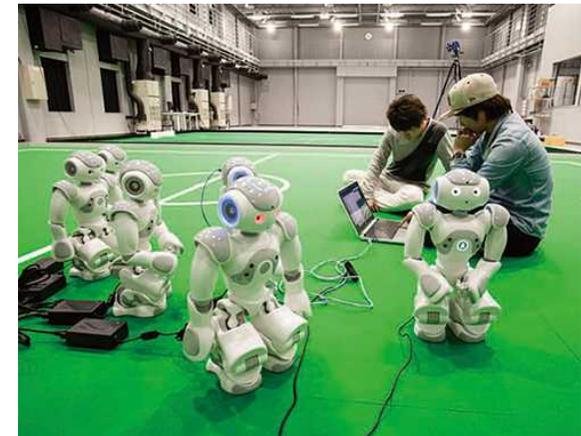
自動車、航空宇宙、ロボット産業をはじめ多様な産業の育成・振興、立地環境の整備、中小・小規模企業振興、産業人材の育成・確保などに取り組み、圧倒的な産業集積を誇る愛知の産業力を一層強化し、「産業首都あいち」を目指す。



- 自動車産業
- ・燃料電池自動車（FCV）（写真）の普及や、水素ステーションの整備を推進
- ・自動運転の実証実験を実施



- 航空宇宙産業
- ・日本初のジェット旅客機MRJは、この地域で開発



- ロボット産業
- ・愛知県は、ロボット産業も活発な医療分野や産業界への活用を推進

# (1)次世代自動車・技術の普及促進

- 社会実装を見据え、公道における最先端の自動運転実証実験を実施・支援するなど、自動車産業分野の新技术開発を促進。
- 2017年10月、自動運転システムに関する企業・大学等や自動運転システムの導入を目指す県内の市町村等が参画する「あいち自動運転推進コンソーシアム」の設立総会を開催。
- 水素ステーションに、愛知県独自の補助制度を実施。整備・配置数は20か所で日本一。
- 中小企業等の事業者がFCV・EV・PHV等を導入する場合に経費の一部を補助。

## 自動車安全技術の研究、自動運転の実証実験

【2016年度】15市町の公道で実施（総実走距離 約2,800km）

【2017年度】10市町で実施（総実走距離 約700km）

遠隔型：5市町（うち、幸田町[全国初]、春日井市、名古屋市は公道で実施）  
非遠隔型：5市

【2018年度】実用化を見据え、3市で複数台の遠隔型自動運転車両を同時に使用する実証実験を実施。うち1市では高度な通信システム（5G）も活用。



公道における自動運転実証実験の様子（2018年2月）

## 次世代自動車（FCV・EV・PHV）とインフラ整備



MIRAIの組立工場



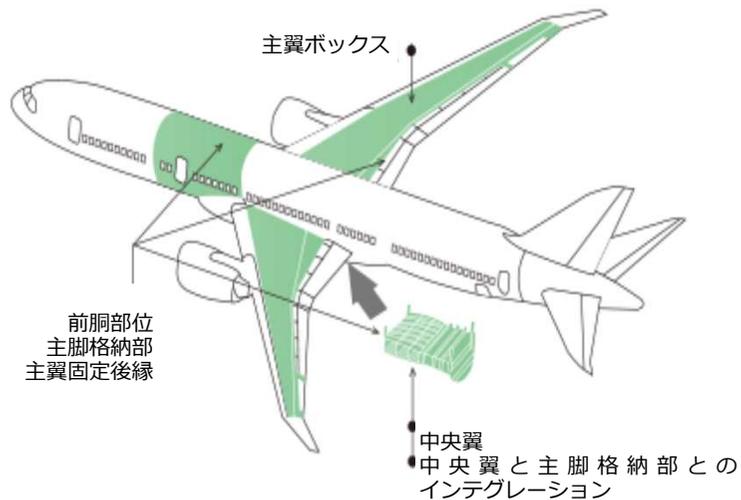
愛知県庁移動式水素ステーション



愛知県庁充電ステーション（2014.11.4 供用開始）におけるPHVの充電

## (2) 航空宇宙産業の振興

- 愛知県を中心とする中部地域は、日本の航空機・部品の5割以上を生産する日本最大、アジアNo.1の航空宇宙産業の集積地。
- 2011年に「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」として国際戦略総合特区の指定を受け、ボーイング787等の量産、ボーイング777Xの開発・量産、国産初のジェット旅客機MRJの開発・生産、宇宙機器開発・供給事業を推進。
- 研究開発から設計・開発、飛行試験、製造・販売、保守管理までの一貫体制を構築。シアトル（アメリカ）、ツールーズ（欧州・フランス）に匹敵する第3極の形成を目指す。



米モーゼスレイクの空港に到着したMRJ飛行試験機1号機

- ・現在1～4号機が飛行試験を実施
- ・2018年7月に世界最大規模の航空見本市「ファンボロー国際航空ショー」で初のデモ飛行実施



種子島宇宙センターでの打ち上げ

- ・H-II A、H-II Bロケットの開発・組立が県内で行われ、種子島宇宙センターへ搬送
- ・現在H3ロケットを開発中

### (3) ロボット産業の振興

- 愛知県は、事業所数（全国1位）、製造品出荷額等・従業員数（全国2位）を誇るロボット産業の集積地。
- 2014年11月に「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立し、「製造・物流等」、「医療・介護等」、「無人飛行ロボット」などの分野において、ロボット産業を振興。
- 2015年8月、国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）内に、「あいちサービスロボット実用化支援センター」を開設し、モノづくり企業やユーザーを支援。
- 2020年に、ロボット国際大会「ワールドロボットサミット」を愛知県国際展示場で開催し、愛知のロボット産業を世界に向けて発信。

#### 〔サービスロボットの実用化〕

- サービスロボット実用化支援  
・中部国際空港島で社会実装を目指すサービスロボットの研究開発や実証実験を支援



サービスロボット社会実験の様子

#### 〔医療・介護等分野ロボットの实用化〕

- リハビリ支援ロボットの实証実験  
・リハビリ患者の増加や医療人材の不足が深刻化する中、効率的・効果的な治療として期待される「リハビリ支援ロボット」を用いた実証実験を支援



リハビリ支援ロボット



歩行支援ロボット

#### 〔無人飛行ロボットの活用〕

- 火災消火活動の実証実験  
・消防車や人による消火が困難な区域を想定し、映像を地上に送信しながら、消火剤の投下装置を搭載した無人飛行ロボットによる消火活動の実証実験を支援



消火活動用飛行ロボット

被害状況の確認や消火活動の実施



人が立ち入れない区域での火災・災害など

## (4) 企業立地・研究開発の支援

### 「産業空洞化対策減税基金」による補助制度

- 活力と持続力ある日本一の「産業首都あいち」づくりを目指し、県外企業の新規立地や県内企業の再投資、付加価値の高いモノづくりにつながる研究開発・実証実験を支援。

制度名		内容	制度名	内容
21世紀高度先端産業立地補助金		高度先端分野における大規模な工場・研究所の投資案件を支援	新あいち創造研究開発補助金	成長が期待される分野において、企業等が行う研究開発や実証実験を支援 ① 研究開発 ② 実証実験 ③ サービスロボット実用化
新あいち創造産業立地補助金	Aタイプ	工場等が立地する市町村と連携して、県内における再投資を支援		
	Bタイプ	サプライチェーンの中核をなす分野や、成長産業分野における投資を支援		

### 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

- 1 事業主体：愛知県企業庁
- 2 立地企業：トヨタ自動車株式会社
- 3 位置・面積：豊田市(旧下山村)・岡崎市(旧額田町)の約650ha(うち改変区域約4割)
- 4 主な研究開発施設の内容  
 研究開発施設：耐久試験、車両台上評価等  
 テストコース：高速走行での車両性能評価、燃費計測や安全性評価等  
 周回路：約5,370m、高速評価路：約6,000m  
 カントリー路：約5,360m など 計11本  
 従業員：約3,850名(研究者含む)
- 5 事業スケジュール  
 用地造成工事：2012年度から8年程度(2020年度完了予定、2018年2月 中工区を引渡し済)  
 施設建設工事：用地を引渡したところからトヨタ自動車(株)が施工(2025年度 完了予定)

#### 土地利用計画

(主に西側に研究開発施設等、東側にテストコース等を配置)



# (5) Aichi-Startup (あいちスタートアップ・エコシステム) の推進

- AI、IoTやビックデータといったデジタル技術の加速度的な進展による歴史的な転換期にあっても、愛知県が競争力を維持・強化していくためには、強みであるモノづくりと先端デジタル技術を融合させ、革新的な製品・サービスや新たなビジネスモデルを生み出し続ける「循環」が不可欠。
- イノベーションの好循環を実現するため、愛知県を中核として、地域の大学、経済団体、金融機関、公的機関が連携し、スタートアップ・エコシステムの拠点形成を図るプロジェクト「Aichi-Startup (あいちスタートアップ・エコシステム)」を2018年4月に立ち上げ、10月に戦略を策定。

スタートアップ・エコシステム・・・起業希望者に対して、企業や弁護士等の専門家、地域資源などを有機的に結び付け、循環させながらスタートアップ企業の創出を地域で戦略的にバックアップしていく仕組み。

## あいちスタートアップキャンプ

・新しいアイデアにより起業を希望する方を対象に、週末の3日間を利用して、ワークショップ形式のキャンプを実施し、ビジネスプラン作りのための実践的なコーチングや仲間との交流を通して、起業に向けたスタートを全力でサポート。

**Aichi-Startup Camp 参加者募集!**

愛知県では次世代を担う起業家の発掘・育成に取り組んでいます。今回、「Aichi-Startup Camp」(あいちスタートアップキャンプ)と題し、新発想のあるビジネスアイデアをお持ちの方で、起業・起業を目指す方を対象に、実際に起業するまでのプロセスをサポートするワークショップを開催します。

**参加費無料**

**応募要件**  
新しいビジネスアイデアをお持ちの方で、起業・起業したいと考えている方  
※応募後、間もない方も応募いただけます

**Camp開催日**  
第1回: 8/24 (金) ~26 (日)  
第2回: 9/21 (金) ~23 (日)  
第3回: 10/12 (金) ~14 (日)

応募はコチラ! <https://www2.deloitte.com/jp/semi4551>

## あいちアクセラレーター2018

・革新的な技術を有するスタートアップ企業を県内外から募集し、著名起業家等のメンターによる短期集中支援、他のスタートアップ企業や既存産業・金融機関・支援機関等とのネットワーキング、資金獲得、モノづくり企業等とのマッチング等につなげる機会と場を提供。

**AICHI ACCELERATOR 2018**  
powered by O-1Booster 愛知県

世界のモノづくりにイノベーションを起こす  
あいちアクセラレーター2018は、愛知県企業がこれまで培ってきたモノづくりの伝統や技術・技術の積み込みと、起業家のアイデアを合わせ合わせることで、良のみに新しい価値を生み出すためのアクセラレータープログラムです。集中的な支援や提携のモノづくり企業とのマッチングによって、新たなビジネスモデルの創出や技術革新を促進させます。

**ビジネスプラン募集!**  
募集期間 2018年9月30日

人工知能、機械、医療、環境、宇宙など、新しい未来を創る領域の革新的な事業計画書(企画書、セリテック、戦略、ロードマップ)を有する革新的なスタートアップ企業を募集いたします。

Schedule	ビジネスプランの募集	ビジネスプランコンテスト	アクセラレータープログラム	DEMO DAY
2018年7月10日~9月30日	2018年10月下旬	2018年11月~2019年3月	2018年11月~2019年3月	2018年11月~2019年3月
ビジネスプランの募集期間中に、応募いただいたビジネスプランの中から、審査員による選考が行われます。	10月までに集まったビジネスプランの中から、審査員による選考が行われます。	愛知県を中心とした国内外の投資家や、提携企業とのマッチング、資金調達やネットワーキング等の支援を行います。	愛知県を中心とした国内外の投資家や、提携企業とのマッチング、資金調達やネットワーキング等の支援を行います。	アクセラレータープログラムを実施した事業家の発表を行いました。

**事前セミナー&交流会**  
2018年8月8日~9月7日  
愛知、東京、福岡の各地で開催を予定。本プログラムの説明、ネットワーキングを実施します。詳しくは募集要項をご覧ください。

お問い合わせ [info@o1booster.com](mailto:info@o1booster.com)

あいちアクセラレーター2018 WEBサイトはこちら

## (6) シンガポール国立大学(NUS)との連携

- 愛知（名古屋大学、国立長寿医療研究センター等）とシンガポール国立大学（NUS）で、研究交流を推進。
- 2018年8月17日には、シンガポールで知事がNUSのタン総長と、「科学技術分野における連携協力に関する覚書」を締結。

### 覚書の内容

- ・ 愛知県とNUS間において、科学技術分野における包括的な連携協力を推進。
- ・ 愛知県は、名古屋大学や国立長寿医療研究センターなどの関連機関によるNUSとの連携協力を促進。

### 連携協力の範囲

・ 材料工学

・ 交通工学

・ 老年医学・老年学

・ 情報科学

- ・ 双方で合意されたその他の分野
- ・ 双方の若手人材の育成

### 県内の研究機関・大学とNUSとの連携協力

- 知事立会いのもと、個別の覚書、協定を締結。
- ・ 国立長寿医療研究センターとNUSとの研究交流に関する覚書（2017年8月23日 締結）
  - ・ 名古屋大学とNUSとの全学協定・全学学生交流協定（2018年8月17日 締結）



大村知事とNUSタン総長との覚書締結(2018.8.17)

# 3 文化・スポーツ・魅力発信

～世界から人を惹きつける魅力ある大都市圏に向けて～

芸術・文化の創造・発信、全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の育成・招致、地域魅力の磨き上げ、国内外からの誘客促進などに取り組む。



- あいちトリエンナーレ2016での展示風景  
・ジェリー・グレッツィンガー《ジェリーズマップ》  
愛知芸術文化センター



- アイアンマン70.3セントレア知多半島ジャパン  
・愛知県で開催される日本唯一のアイアンマン70.3



未来クリエイター  
愛知 AICHI 2018  
Destination Campaign  
想像を超える旅へ。

- 愛知デスティネーションキャンペーン  
(2018年10月1日～2018年12月31日)  
・愛知県と県内自治体・観光事業者及び  
JRグループ旅客6社が「未来クリエイター  
愛知～想像を超える旅へ。」をテーマに実施

# (1) 歴史・伝統文化の発信

○ 日本一の山車文化、三英傑を輩出した武将観光、独自の食文化「なごやめし」などの魅力を国内外に発信。

## ○山車文化

- ・ユネスコ“無形文化遺産”「山・鉦・屋台行事」(33件)に、愛知県は全国最多の5件が含まれる。(2016.12.1登録決定)
- ・保存団体・市町・県による「あいち山車まつり日本一協議会」を設立(2015.12.13)し、「山車日本一あいち」を宣言。シンポジウムや魅力発信イベントを開催。



◆尾張津島天王祭の車樂舟(だんじりぶね)行事  
15・16世紀～

## ○武将観光・産業観光

- ・武将観光イベント  
「武将のふるさと愛知」を県内外へ発信し誘客を図るため、2014年度から開催。
- ・徳川家康と服部半蔵忍者隊  
2015年7月に結成。名古屋城を拠点に各種イベントで「武将のふるさと愛知」等の愛知の魅力をPR。



- ・スタンプラリー  
愛知・岐阜両県の産業観光施設・武将観光施設を巡るスタンプラリーを実施。

## ○なごやめし

- ・「なごやめし」を戦略的に国内外へPRし、観光振興、地域活性化を図る。
- ・「なごやめし普及促進協議会」の設立(2015年6月)。
- ・なごやめし公式サイト、ハンドブック、PRポスター、多言語リーフレットの作成等。



## (2) 全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の育成・招致

- スポーツ大会の開催を通じた地域の活性化や愛知のブランド力向上を図るため、「第20回アジア競技大会」の開催や「新城ラリー」、「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」、「奥三河パワートレイル」、「ラグビーワールドカップ2019™」などの開催を支援。

### 【第20回アジア競技大会の概要】

○ オリンピックに次ぐ参加選手数で、4年に一度開催されるアジア最大のスポーツの祭典(選手、大会関係者約1.5万人を想定)。

○ OCA(アジア・オリンピック評議会)主催で、加盟する45の国と地域が参加。

- 大会会期 2026年9月19日(土)～10月4日(日) 16日間
- 競技会場(現在、調整中) 36競技の実施と仮定し、会場を想定
- 選手村 名古屋競馬場移転跡地の他、県内で分散



第20回アジア競技大会開催PRポスター



新城ラリー(全日本ラリー選手権)  
(2018年11月3日～4日)



「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」  
(2019年3月8日～10日)



「奥三河パワートレイル」  
(2019年4月7日)



「ラグビーワールドカップ2019™」の愛知県・  
豊田市での開催(2019年9月20日～11月2日)

### (3) 中部国際空港島における交流拠点性の向上

- 国際展示場の整備
  - ・ 日本初の国際空港隣接型となる愛知県国際展示場（愛称：Aichi Sky Expo、2019年9月オープン予定）は、面積約9万m<sup>2</sup>で、6万m<sup>2</sup>の展示面積を有し、2020年のワールドロボットサミットのほか、2019年・2020年の技能五輪全国大会、全国アビリンピックの会場となることが決定。
  - ・ 「コンセッション方式」を導入。民間の創意工夫と経営感覚を生かして、展示会を企画・誘致。
- Aichi Sky Expoと新ターミナル、複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」は空中回廊により接続、相互の利便性を高め、新たな賑わいの空間を創出。
- 中部国際空港及びその周辺エリアにおいて、国際競争力の高い「MICEを核とした国際観光都市」の実現を目指し、相応しい機能整備について調査研究を進める。



愛知県国際展示場（愛称：Aichi Sky Expo）イメージ

LCC向け新ターミナル

FLIGHT OF DREAMS

2019年度上半期オープン予定

2018年10月12日 オープン

さらなる航空需要の増加を見据えて、LCC向け新ターミナルを整備。

ボーイング787初号機の展示やシアトルの空間演出からなる複合商業施設で空港直結。

## (4)ジブリパーク構想

- 2005年日本国際博覧会（愛知万博）の理念を継承するため“ジブリパーク”を整備。

愛知万博の理念とジブリ  
作品に流れているものが  
合致



人、いきもの、地球に対する“愛”



©Studio Ghibli



青春の丘エリア ©Studio Ghibli

### ジブリパーク構想

- 愛知万博の理念を未来に継承し、愛・地球博記念公園の魅力と価値を一層高め、多くの皆様に愛される公園として整備



2022年度中の開業を目指す。



ジブリの大倉庫エリア ©Studio Ghibli

## リニア全線開業後を見据えて

さらに、リニア全線開業後を見据えた取組を進め、

機能強化された国際拠点の空港、港湾を有し、  
産業の革新・創造拠点であるこの地域が

スーパー・メガリージョンのセンターとして、  
我が国の成長を牽引

- 日本一元気な愛知
- すべての人が輝く愛知
- 日本一住みやすい愛知



## 本県から見た国土政策上の重要課題(例)

- 世界から、人、モノ、カネ、情報を呼び込むための取組の強化  
〔スーパー・メガリージョンおよび3大都市圏の世界への打ち出し、グローバル企業・人材の誘致、MICE誘致を始めとする外国人の来訪促進 など〕
- スーパー・メガリージョンが形成される中での東京一極集中の是正  
〔首都圏に集中する人口・企業の新たな分散誘導方策の検討・実施、新しいライフスタイル・ビジネススタイルの創造に向けた取組、首都機能をはじめとする中枢管理機能のバックアップ体制の整備 など〕
- リニアの効果を広域的に波及させる広域・国際交流基盤の整備  
〔中部国際空港の二本目滑走路の早期整備とグローバル・ゲートウェイとしてのステータスの確立、東海環状自動車道など広域幹線道路網の早期整備、「国際産業戦略港湾」名古屋港の機能強化 など〕
- 本県の強みであるモノづくり産業と研究開発機能のさらなる強化、イノベーションセンター化  
〔自動運転やロボットなど新たな技術の実証・導入・活用拠点(ショーケース)化、首都圏・関西圏との連携方策の検討・実施(I T企業とモノづくり産業の連携、創業・起業がしやすい環境づくりなど) など〕